

【報道関係各位】

三谷産業株式会社  
2019年4月8日

## 金沢美術工芸大学と教育研究活動協定書を締結

～三谷産業の施設を題材に、美大生が人と空間の関係を捉えたサービスを創出～

三谷産業株式会社（本社：石川県金沢市／代表取締役社長：三谷 忠照、以下 三谷産業）と公立大学法人金沢美術工芸大学（以下 金沢美術工芸大学）は、4月8日に同大学で、専門分野横断型の教育研究活動についての協定書の締結式を執り行いました。式には、同大学の山崎剛理事長、当社取締役副会長 饗庭達也および代表取締役社長 三谷忠照ら13名が出席しました。

金沢美術工芸大学では、美術工芸学部デザイン科環境デザイン専攻の教育研究活動の一環で、「金沢の街から学び、街に還す」をテーマとして、地域社会の施設を題材に学生が研究・演習を行うプログラムを実施しています。2013年より開始され、今回は三谷産業が本活動に協力し、所有する施設を研究題材として提供することを決定しました。

当社は、アートやデザインはビジネスおよび社会の発展に資する重要な分野であると捉えており、本活動への協力も、金沢の魅力を発見し、高めていく機会になると期待しています。また研究活動で得られた成果から当社も学びや気づきを得て、今後、金沢の魅力や可能性を広く地域に発信することに取り組んでまいります。

### ■本教育研究活動について

金沢美術工芸大学は、1946年の創立以来、文化都市金沢における美術・工芸・デザインの分野の教育・学術研究の中心となってきました。その中でも環境デザイン専攻においては、「『人』から考える『場』づくりを軸に分野を横断した創造力を育てる」を理念として掲げています。

こうした理念のもと、同専攻では現実の人や場を対象としながら、5つの専門分野「ランドスケープ」「アーキテクチャ」「インテリア」「プロダクト」「グラフィック」を横断的に学び、実践する研究活動を実施しています。

本プログラムの基本方針には「金沢の街から学び、街に還す」が掲げられ、毎年地域社会の中で一つの施設を題材に選び、学生約20名の一人ひとりが研究に取り組み、新たなサービスあるいはビジネスを創出・可視化します。

2019年度は、三谷産業の所有施設が研究対象の題材となることに決定しました。

本活動では、対象施設を地域社会の施設と捉えた際に、学生がその「場」の有する潜在的な可能性を洞察し、新たなサービスなどを創出することを通して、「課題発見力」「解決発想力」「伝達表現力」を身に付けることを目標としています。



締結式の様子

左：金沢美術工芸大学 山崎剛 理事長  
右：当社代表取締役社長 三谷忠照

#### 【本教育研究活動 概要】

テーマ： 既存施設を活用した新たなサービスの提案  
参加学生： 金沢美術工芸大学 デザイン科 環境デザイン専攻 3年生 21名  
活動期間： 2019年4月12日～2019年8月7日  
研究対象： 三谷産業が所有する一部の施設

#### 【協定書締結式 概要】

日時： 2019年4月8日（月）13:15～13:45  
場所： 金沢美術工芸大学 研究所棟2階 企画情報室  
（石川県金沢市小立野5-11-1）

（補足情報）

#### ■当社と金沢美術工芸大学の関係について

当社と金沢美術工芸大学は、これまでもさまざまな形で相互協力を行ってきました。

- ・ オリジナルソフトウェア製品「POWER EGG®」のユーザーインターフェース開発  
当社子会社のディサークル株式会社が開発・販売する「POWER EGG®」では、同大学との共同研究により、製品特長の一つであるユーザーに「気づきを促す」インターフェースが開発され、実装されています。
- ・ 1 DAY インターンシップの実施  
2016年には、当社金沢本社において、同大学の学生20名を対象とした1 DAY インターンシップを実施しました。デザインするという行為や思考のプロセスをビジネスの現場に活かすことを念頭に、グループワークを通して企業で働くということを実感していただきました。
- ・ 東日本大震災の被災地支援活動として創作体験教室を開催  
2016年より毎年、東日本大震災の被災地である宮城県石巻市の震災遺児ケアハウスを訪ね、同大学の学生を中心として震災遺児らに向けた創作体験教室を開催しています。

#### <本件に関するお問い合わせ先>

三谷産業株式会社 コーポレート本部 経営企画部

TEL：03-3514-6003